

社団法人日本自閉症協会  
奈良県支部ニュース

# 絆

きずな

第67号 9月号  
購読料1部100円  
(会員は会費に含まれています)



発行：社団法人日本自閉症協会 発行責任者：宍戸良朗  
支部長&事務局：河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10  
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

「エイブル」の感動から未ださめない私です。午前、夜の上映終了後、見に来て下さった方から拍手、見送りの時には、お礼の言葉をたくさんの方からいただきました。新たに違う感動をいただきました。事務局の皆さん、本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございます。ジュン君が最後に「さよなら」と言いながら泣き出したシーン {皆さんも印象深かったと思います} ジュン君自身、なぜ涙が出てるのかわからなかったそうです。そんな自分に驚き、目から涙をえぐりとりとうしていたそうです。そんなジュン君の気持ちがわかった監督は涙があふれてしまい、カメラをジュン君に向けていても、見ることができなかったそうです。無事撮れているか、とても不安で神頼みしたそうです。そして、撮影ができていたことで「神様のおかげだ」と感謝したそうです。数ヶ月前に三重で「エイブル」を上映した友人から聞きました。

あの時の涙がどんなに大きな意味を表してるか、又教えてもらいました。 金本

午前の部は、会議があって行かれず午後の部に出席しましたが、上映時刻間際に沢山の人々が来られ嬉しい悲鳴、多くの人々に感動を与えました。自分とソックリなジュン君を息子はどんな思いで観ていたかなと、息子に聞いてみたい心境です。最後迄残って下さった療育部のみなさんご苦労さまでした。 石川喜子

## abl e上映会大成功!!

ジュンくんのなみだに 午前・午後とも涙してしまいました。「本当に 上映が 実現できてよかった!」と思えた場面でした。いろいろな方々の思いが詰まった「abl e」上映でした。いろいろな方に感謝の思いでいます。この感動は、アメリカだからできたとは思いません。奈良県に住んでいても、このような感動はあちこちで起こる、起こせる可能性があるはず。力不足に歯がゆい思いですが・・・

自閉症の人たちにも いつも いい顔で純粋な瞳は 輝かせていてほしいです。ポスターにもなっていたイルカの水槽前の ジュンくんのあの瞳のように。私には、あのジュンくんが わが息子と重なって、もうたま

りませんでした。

午前 192人

午後 150人

この重みの脱力感から抜け出すのに、少し時間がかかりそうです。

パソコン 復活後の 初MLへの メール

上島 昌美



## abl eの会事務局からのメール

上映会のご報告を頂きまして誠にありがとうございました。大成功のうちに終わられたとのこと、本当に良かったですね。たくさんの方々が上映に関われ、ご苦労も多々あったことかと存じます。でも来て下さった方々の笑顔にきっと救われたことと信じています。上島様の感想のメール、勝手ながら高橋ジュン君のお母様に転送させて頂きました。大変喜んでおられました。

『abl e 2』も来春の劇場公開を目指し、監督以下撮影スタッフが編集作業に日夜勤しんでいます。「前作『abl e』以上のものになるよ」との報告を監督から受けており、我々スタッフ一同も完成を心待ちに致しております。一般へのフィルムの貸出は来夏以降になると思いますが、その際、再度上映会を開催してくだされば大変幸甚に存じます。

取り急ぎお礼方々ご報告まで。

残暑厳しき折、お身体くれぐれもご自愛くださいませ。      abl eの会事務局大槻・三井



## みんなで考えよう！ 自閉症・発達支援センター について

2003年9月3日奈良県庁3階の会議室において奈良県における自閉症・発達支援センターにかかわる話し合いが持たれました。

奈良県福祉部からは障害福祉課長の三毛（みいけ）課長・栗本氏・安川氏、支部からは松本夫婦・中川・石川・田中・河村の6名が出席しました。また櫻井研究室（櫻井先生・大西さん）も参加されておりました。県からは自閉症について勉強したいということと、センターとして何がいいのかの学習のためこの機会を持ったとの趣旨が示されました。そのあと、下記に示す支部の考えを示し、櫻井先生の提示がありました。支部は設立を急がず内容の充実を訴えたが、櫻井氏は急ぎまずモデルを造り、その後中身の充実を図ることを主張されました。この件は奈良県に住む自閉症児者本人の暮らしやすさを左右する大切な事業であり、日本自閉症協会奈良県支部にとって大切な事柄です。部会等への積極的参加と会員の皆様の忌憚のないご意見をお願いします。（文責 河村）

### ★奈良県支部案

奈良県における自閉症・発達障害支援センター

日本自閉症協会奈良県支部

奈良県の特徴

○これまで行政が自閉症に目を向けてこなかった  
＝奈良県には自閉症関係施設はない・全国自閉症者施設協議会のメンバー無し。自閉症に専門性を持つ社会福祉法人施設は無い。

○全国的には遅れるが、自閉症の理解と自閉症に対応できる専門家養成を目指す取り組みを始めたばかり全国でいちばん遅い支部発足。

☆一年かけて奈良の地域性に合う奈良県版自閉症・発達障害支援センターの設立を目指す。

今、全国で行われている既存の形とは違う

○センターの事業内容

・相談・療育・就労・啓発研修

◎・地域生活支援

(これに結びつく上4つの事業内容)

○センターは自閉症児者へのサービスをコーディネートしていく機関と位置付ける。

○センターは、自閉症児者へ広範囲な内容のサービスを提供するため、また、広い県内をカバーするため、奈良の既存資源(設備、機関等)を、積極的にかつ特定個所の設備(機関)に限定することなく利用できることが必要である。

その意味から、奈良の既存資源を利用することを検討する。

また、既存資源を活用することは、既にある蓄積(経験、知識、技術、)を有効に使用することであり、トータルな面で(コストを含めて)効率的である。結果として、利用者によりよいサービスの提供が可能になる。

○奈良の資源…リハセン 児童相談所 松籟荘 県立医大 民間施設(知的障害者施設・ショートステイ施設) 親の団体 弁護士 等

★自閉症協会奈良県支部の構想

☆親・本人の思いが尊重される自閉症・発達障害支援センターの運営。親亡き後の支援も視野に入れたセンター運営=支部が中心になって考えていく。

☆奈良県支部：自閉症・発達障害支援センター設立検討委員会を立ち上げる。

(事務局 田中 堀)

○箱…常時活動できる公的場所をとりたい。行政に要望したい。

○中心人物…奈良県に関わってくれる自閉症の専門家を探す。

○稼働中の他府県センターの運営や予算がどう使われているかを調査する。

○既存団体施設の中で自閉症のことを理解し、協力してもらえる施設を探し出し、ショートステイなどで、協力してもらう。

○ヘルパー養成に自閉症講座を開催する。

★櫻井案(※資料レジメ9枚あり以下は抜粋です。詳細を見たい人は役員まで)

2003年9月3日

「奈良県自閉症・発達障害支援センター  
スペクトラム(仮称)」構想

1、設立趣旨と経緯

(1)「設立趣旨書」ー

1998年、自閉症・発達障害児・者とその家族を専門的に支援しようとの思いから、



大学の一研究室に心理・発達相談室をオープンしました。学生を中心に子どものより良い成長や家族の福祉向上を目的として、本学発達相談室において自閉症児及び周辺の発達障害児とその家族に対し発達相談や個別療育、さらには奈良県下でのボランティア派遣(放課後に家庭で行う余暇支援など)を行ってきました。しかしながら、マンパワーや施設使用の状況・援助の継続性を考えた時、より専門的で安定した活動が出来る組織として会を運営し発展させていきたいと願っております。

(2)「これまでの経緯」

櫻井心理・発達相談室オープン後、私たちは自閉症児へのよりよい援助を展開してゆくため、心理・発達相談室長の櫻井秀雄関西福祉科学大学助教授のもと、関西福祉科学大学において活動してまいりました。援助の実績は、1998年度においてボランティア派遣が年間延べ45名、1999年度78名、また2000年度には発達相談・ボランティア派遣・継続治療の3部門を設け合計176件への支援を行いました。さらに2001年度からは継続治療部門にグループ制を導入し、支援件数が年間延べ218件となり、2002年度には年間支援件数が延べ876件となりました。この支援件数の増加はニーズそのものであると言えます。

2002年度 櫻井心理・発達相談室 実績報告(※詳細は省略)

(※数字は件数) 個別遊戯療法 98 集団遊戯療法 82 個別療育指導 82 家族デイケア 82 家族芸術療法 82 家庭療育 292 親カウンセリング 114 発達検査 29 技術援助 15

総合計 876件の実績があった旨の表が書かれてある。

※家庭療育とは発達障害児を養育する家庭に対して療育者を派遣する事業のこと。

※技術援助とは発達障害児の通う幼稚園・保育園・学校等へ技術援助を行うこと。

※ボランティア実績は、別紙①参照。

学校完全週休2日制が導入され、余暇を過ごすことが苦手な自閉症児やその家族にますますの支援が必要であると考えられます。また、高機能自閉症児やアスペルガー症候群児、軽度発達障害児が抱える困難に対しては、本人へのアプローチと共に、周囲の理解・協力が得られるように体制を調整することが不可欠であります。私たちは今後の活動の中で、グループセラピーを主軸とした社会性の発達プログラムや、より専門的な支援活動、関係協力機関への啓発活動を推進してゆきたいと考えます。

2003年8月7日(別紙④-1)

「自閉症・発達障害支援センター スペクトラム(仮称)」

<事業計画>

(1) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者の心理療法及び治療教育的事業

→高機能を含む自閉症児及び関連する発達障害児に対する、発達評価(アセスメント)等を実施し、心理療法・治療教育的介入により、コミュニケーション技術や社会性の向上を図る。

(2) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者の本人、家族、児童福祉施設、関係する援助者に対する相談・情報提供及び技術援助事業

→高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者の発達評価(アセスメント)に基づき、家族や福祉施設等の関係者に対し、情報提供及び技術援助に対する助言を行う。

(3) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者の養育者及び家族に対する心理的支援

→兄弟と養育者の関係を保証する(養育者へのカウンセリングを含む)とともにレスパイトケアを行う。

(4) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者のうち強度行動障害等の問題行動により、家庭および適所・入所施設において支援を必要とする本人に対し援助スタッフを派遣する事業

→個人向け・団体向けそれぞれに療育プログラム

を構成し、家族・地域・施設に対して自閉症に関する専門的知識を持った者を派遣し、技術援助を行う。

(5) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者に対する余暇活動及び文化・芸術活動を推進・啓発する事業

→高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者に対して余暇活動及び文化・芸術活動を推進・啓発することを目的とした活動を行う。

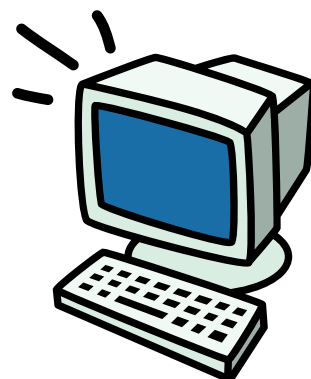
(6) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者に対する調査研究に基づいた療育法の開発及び地域社会への啓発事業

→高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者に対する療育法の研究・開発に並行して、地域社会が当該児・者に対して正しい理解を深めることが出来るよう関係各所から講師を招き、啓発セミナーを開催する。

(7) 高機能を含む自閉症児・者および関連する発達障害児・者に対する就労支援及び生活支援に関する事業

→就労支援機関の紹介や就労支援機関との連携による就労支援を行う。また、関連施設の訪問等を行い、職員に対しての助言や指導などの支援を行う。

以上



## 療育部会のお知らせ

9月の療育部会は、9月19日（金）大和郡山福祉センター会議室で10：00から行います。

今回のテーマは、「支援費どう使った？・報告会」です。

支援費使った方、まだの方、たくさんの方の参加お待ちしております。

## SKIP からのお知らせ

前は、中谷さんの急病で皆様にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

9月の予定は9月18日大和郡山福祉センター、ボランティア室にて10：00より、中谷さんを講師にお迎えします。テーマは未定です。5・6月の話を聞き逃した方も、参加お待ちしております。

## 7月鈴鹿キャンプの報告



7月28日鈴鹿峠自然の家でキャンプを行いました。参加者はボランティアさんをいれて40人。当日はあいにくの雨で予定していたプール遊びが中止になってしまいました。雨の中のカレー作りや工作などの活動をしました。自分で選択して活動する・を目標にそれぞれボランティアさん、保護者と行動しました。紙皿を使っての工作、周辺の散歩、プレイルームで過ごす子など、いろいろでした。なによりも、ボランティアさんたちのおかげで無事キャンプを終えられたことを感謝いたします。

### ★アンケートからの意見

#### (施設について)

- ・広すぎず、狭すぎず行動しやすい広さだった。
- ・自然が豊かでよかった。懐かしいかんじでよかった。
- ・建物の構造がわかりやすくよかった。
- ・貸しきりは、のびのびできてよい。
- ・野外料理が作りやすかった。
- ・シャワーだけというのは、もうひとつだった。
- ・そうじが行き届いてないのが気になった。

#### (活動内容について)

- ・雨にもかかわらず、楽しく過ごせた。
- ・工作は共同製作なんてどうでしょうか？

- ・歌や音楽もとりいれてほしい。
- ・ボールなどを使ったり、ミニゲームは？
- ・もう少し全体活動もあってもいいのでは。
- ・全員で何か活動を共有（強制でなく）できたらいいですね。
- ・ねらいは良いけどスタッフ不足では？
- ・子供が選ぶというのは大切だと実感しました。
- ・プレイルームはやはり必要。

#### (食事内容)

- ・バイキングは助かります。
- ・いつもより、良く食べていた。
- ・そうめんを喜んでいました。
- ・バイキングはエンドレスになりがちなので、それぞれの分がわかるようにした方がよい。
- ・もう少しお茶を飲みやすいようにして欲しかった。

#### (キャンプの時期)

- ・これくらいの時期で良い
- ・8月に入ってからのほうが、学校のプールと重ならない。
- ・土日だともっと、みんな参加しやすい。  
(社会人、父親の参加しやすい日程で)

#### (スケジュールについて)

- ・スケジュールの提示は良かった。
- ・選択して、本人に決めさせてやったのは、本人にとって何より楽しかった。
- ・自分で選ぶという事、しっかり実践できて、良いスケジュールだったと思う。
- ・ゆったりしていて、よかった。

#### (その他)

- ・参加者の名簿はあらかじめ欲しいです。
- ・帰りの針テラスの停車時間もう少し欲しかった。

#### (渋滞でお昼が迫っていたので)

- ・会員本人は圧倒的に男子が多く、しかも思春期にさしかかろうかという年頃の子の参加が目立つが“お父さんは何処？”“お母さんの負担大きくない？”って感じています。

お父さんの開拓、さらには兄弟姉妹の力や学校、地域の力の開拓が必要。

顔と顔を合わせられる、activeな療育の取り組みが重要なシチュエーションになっていかなければならないと、思います。

## 会員紹介(療育部編)

市川 智也(いちかわ ともや) 4才  
父、母、姉の4人家族です。

男の子は言葉が遅いものだ。元気な方が良いと回りに言われ続けて、私も楽観していたのですが、2才になった頃から多動になり、買物する時は目が離せず、呼んでも止まってくれませんでした。もっと大変だったのは赤ちゃんや小さい子を見ると走って行って、わざとぶつかったり、押ししたりしていました。

いくらきつく怒っても、目をそらして聞いているのかいないのか、この子はいったいなんなんだろうと思いました。それでも少々言葉も出てきて、去年、三年保育の幼稚園に入れました。

入園したらなんとかなると思ったからです。しかし夏休み前に先生にやはり専門的なところに相談されてはどうかということになりました。

7月に3才健診で言葉の理解がおくれていると言われ、9月から「めばえ学園」という所に週2回通いはじめました。そのころから、行動が少し落ち着き、11月頃からは友達とのトラブルも少なくなってきました。

今年は年中組になり、さらに成長したように思います。周囲のことが見えてきて、少しですが集団になじんできたように思います。これからの課題は言葉の理解が増えることと、多動がきついので落ち着いて座れるようになることです。ボーリングで遊ぶのが大好きで、ジャニーズのYa-Ya-yahというグループが好きです。彼の持って生まれたユニークさ明るさを大切にしていきたいと思いません。



## 事務局から

○9月14日 奈良県支部自閉症発達障害支援センター設立検討委員会

大和郡山福社会館 13:30～17:00

○9月15日 英国自閉症協会に学ぶ

京都市呉竹文化センター 10:30～

○10月11日 12日

中央研修会・支部連絡会 横浜にて

○10月25日 自閉症児者の生活支援と家族交流事業第4回講座 奈良県文化会館小ホール

○11月22日 23日 療育キャンプ

○11月30日 自閉症児者の生活支援と家族交流事業第5回講座 橿原文化会館

★自閉症・発達障害支援センター

自閉症・発達障害支援センター

平成16年度24ヶ所を要求

厚生労働省は、平成16年度予算概算要求において、自閉症・発達障害支援センターを今年度設置が認められている16カ所から、8ヶ所増の24個所にしよう要求しました。

★中央研修会のお知らせ

社団法人日本自閉症協会平成

15年度中央研修会

「自閉症対策における中央行政の動向」



昨年度には「自閉症・発達障害支援センター」や「ジョブコーチ」が設置され、今年度には国立久里浜養護学校が自閉症専門学校となるなど、厚生労働省、文部科学省における自閉症対策の取り組みには大きな進展があります。

自閉症施策の推進のため、こうした行政の最新の動向を中央官庁の担当部局の皆さんから直接お伺いし、正しく伝えていただくことによって、それぞれの支部より地方行政への働きかけをしていく必要があります。

関係者の皆さんの積極的なご参加を期待しています。

《日 時》 平成15年10月11日(土)

13:00～16:30

《場 所》フォーラム横浜 会議室 1

〒 220-8113 横浜市西区みなとみらい 2-2-1-1

ランドマークタワー 1 3 階

TEL 045-224-1133

J R ・横浜市営地下鉄 ・東急東横線 桜木町下車

動く歩道にて7分 動く歩道を降りて右側の

ランドマークタワーの回転扉を入りエレベーター

Aを利用

《主 催》 社団法人日本自閉症協会

《講 師》

社団法人日本自閉症協会会長石井哲夫

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉

課 高原弘海障害福祉課長、山口和彦専門官のど

ちらかお一人（予定）

厚生労働省職業安定局高齢・障害者雇用対策部障

害者雇用対策課 野口真希課長補佐

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

上月正博課長

《参加費》 無 料

《申し込み方法》

「お名前」「ご所属」「ご連絡先」を明記の上、下記まで Fax 又はメールでお送りください。定員になり次第締切です。特に参加票は送付いたしませんので、当日会場へ直接お越しください。定員後の申し込みの方につきましては、事務局よりご連絡をいたします。ご了承ください。

【日本自閉症協会 事務局 Fax 03-3232-6478

E-mail asj@mub.biglobe.ne.jp】

セミナーに関する問い合わせ

TEL 03-3232-6478

#### 編集後記

9月に入ってようやく夏を感じる日々が続きます。体調を崩されないように。

支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、穴戸（0742-49-3855）までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。